

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	都市整備課	主管課長名	白田 伸一
5-2	施策名	景観の良い住環境の保全	関係課	ヤマザクラ課、地域開発課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度		
	市民	①桜川市人口	見込値	人		41,278	41,008	40,738	40,467	40,197	
実績値						41,278					
見込値											
						実績値					
②定住支援事業の支援件数(5カ年累計)		見込値	件			20	50	70	90	110	
						実績値	33				
		見込値									
							実績値				
③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合		見込値	%			63.0	63.5	64.0	64.5	65.0	
						実績値	48.2				
		見込値									
							実績値				
④景観や空き家に関する利活用の相談件数(5カ年累計)	見込値	件			30	40	50	60	70		
					実績値	8					
	見込値										
						実績値					
成果指標設定の考え方	施策の対象である市民の対象指標は、「①桜川市人口」とする。 施策の意図である「住環境の維持と景観の向上が図られ、空き家が利活用されている。」の成果指標は、「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」「②定住支援事業の支援件数」「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」とする。										
成果指標の把握方法と算定式等	対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合、③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、市民アンケートより求める。②定住支援事業の支援件数(5カ年累計)は、事業実績数より求める。④景観や空き家に関する利活用の相談件数(5カ年累計)は、実績件数より求める。										

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した	<input type="checkbox"/> 向上した成果が多かった	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 低下した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がすべて低下した	
背景・要因	「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」は、目標値61.0%に対し、実績値が45.8%だった。旧町村別割合を見ると、岩瀬地区48.1%、真壁地区40.5%、大和地区49.1%となっている。岩瀬・大和地区に比べ、真壁地区の値が低いのは、桜川市バス(ヤマザクラGO)が29年度中に運行が開始されたが、JR駅がないこと等、公共交通の脆弱性について今までのイメージに起因するものと考えられる。 「②定住支援事業の支援件数」は、目標値20件に対し、実績値が33件と大きく上回った。H27より開始した定住促進助成金制度が、確実に浸透したものと考えられる。 「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」は、目標値63.0%に対し、実績値が48.2%だった。旧町村別割合を見ると、岩瀬地区41.5%、真壁地区57.9%、大和地区45.6%となっている。真壁地区の値が、他地区に比べ10ポイント以上高いのは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることや、真壁のひな祭りについて、マスメディアに多数取り上げられたためと考えられる。 「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」は、目標値30件に対し、実績値が8件大きく下回った。空家利活用のための空家バンクは8月に立ち上げたが媒介に関する協定が未結のため、登録件数・相談件数ともに伸びなかった。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」は、目標値61.0%に対し、実績値が45.8%で15.2ポイント下回った。 「②定住支援事業の支援件数」は、目標値20件に対し、実績値が33件と13ポイント上回った。 「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」は、目標値63.0%に対し、実績値が48.2%と14.8ポイント下回った。 「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」は、目標値30件に対し、実績値が8件と22ポイント下回った。 成果指標は、②以外は、目標値に達しておらず、より一層の施策推進が求められている。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
住みやすい住環境の中で、公営住宅については長寿命化計画に基づき、施設の予防保全的な維持管理に努め、住環境の整備を行ってきた。また、平成27年度より開始した定住促進助成金交付事業については、年々申請件数が増え、目標値を大きく上回り大変盛況であった。 しかし、住みやすい住環境であると感じる市民の割合は大きく下回っている。市バスが運行開始されたが、公共交通の脆弱性については、まだまだ市民の目線は厳しいものと思われる。 地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、目標値は下回ったものの、真壁地区では目標値より近づいた値となっている。これは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることや、真壁のひな祭りについて、マスメディアに多数取り上げられたためと考えられる。 空家に関する相談件数は、特定空家に対する苦情等は多かったが、利活用に関する相談は少なかった。	公営住宅については、長寿命化計画に基づき計画的に住環境の整備を行っていく。 定住促進助成金交付事業については、融資金融機関や住宅メーカーにPRを働きかけるとともに、空家バンクを利用した中古住宅には交付金の増額等を進めたい。景観については、景観まちづくり条例に基づく景観計画策定に着手したい。 空家の利活用に関しては、本年3月には空家バンク登録物件の媒介に関する協定を茨城県地建物取引業協会と締結したので、今後の件数増に期待するとともに、相談会の開催等を進める。